

シリーズ
再検証
②

50年前の本誌報道の現在

札幌地下鉄開業50年

その功績と課題

ドウモナラングシ

過去に本誌が報じた、話題の人物やニュースを振り返るシリーズの第2弾は、1971（昭和46）年12月16日に開業した札幌市営地下鉄を取り上げたい。翌年2月に開幕した札幌冬季五輪に合わせ建設された路線であり、その後、札幌の近代化に大きく寄与した功績は周知の通りだが、巨額の資金が投じられたうえ、開業直後はシテムトラブルが相次ぐなど、批判的な声が少なからずあったことも事実だ。1972（昭和47）年4月号では、「ポスト五輪 正直な無人改札機」と題し、厳しい意見を並べている。今冬の記録的豪雪で、雪国における地下鉄の優位性が改めて証明されたが、開業50年を迎えた地下鉄は直面する課題も少なくない。

（フリーライター・内海達志）

「意地悪採点」

て登場したはずが..

地下鉄開通、約三カ月。そろそろレールに乗ってもよさそうなのだが、ドッコイ、笛吹けど走らず。つい先頃も定期券や切符の裏に付いている磁気膜が、正常な働きをせず、交通局ご自慢の無人改札機に赤ランプがつきつ放し、という惨たんたる有様。各所に貼ったポスターには、「定期券をラジオ・テレビの磁場の付近に置かないで下さい」と呼びかける始末。

1には無人機ならぬ職員総出切符きり。北二十四条駅には「蛇」の列。無人改札機百四十台、乗越し精算機二十一、券売機六十八台、両替機二台、駅一台の監視装置十四台。金額五億五千万が泣こうといものだ。トテモ、トテモ人件節約のウタイ文句などおおよそつかぬ。まったくドウモナニ現状だ。

はたして「地下鉄」は真に理的なのか。いかなる目的がけられ、誰がどのように開業させたか。さらには「地下鉄」により誰が「利点」があったのか。そ

期待され

戸など、六大都市はメジロ押し地下鉄申請中。六大都市以外の都市が地下鉄を設けて悪い理由はドコにもない。だが、これまでの経過を思えば、「オリンピック・電車」といわれても返す言葉もないようだ。

違ひまして、車に多くの設置はできません。それと騒音防止ということで、コストのゴムタイヤ式地下鉄がで訳です。（市民通局高速電木戸総務課長）



「も無人改札機は多くの人をさばくのだが」

五輪市政

この丸紅飯田が地下鉄開業より得た利潤とは、丸紅グループの川崎車両が製作した電五十六両と、平岸から真駒で、四・六の高架線のう教習線一・二の受注分。保安装置とうを含め、ザッと億の取扱高という勘定。に強いか、ゴムタイヤといままでない製作工程のです。よそでは仲々作ってませんし、改札機などは、や立石電気の入札もありまが、結局、日本信号に決ま

そんな現状をふまえ、さ月十六日、新年度予算市議

期待されて登場したはずが..

東京、大阪、名古屋に次ぐ4番目の地下鉄として、北24条―真駒内間（約12キ）で華々しく開業した札幌市営地下鉄。世界

を見渡しても、ニューヨーク、パリ、ロンドンなど、地下鉄を擁する都市は32しかなかったのだから、オリンピック効果は絶

大だったといえよう。

当時の本誌は「反五輪」「反地下鉄」のスタンスだったため、開業時の話題は完全にスルーしている。開業から3カ月、ようやく地下鉄の話題を扱ったのだが、その評価は実に厳しい。まずはトラブルの実例をみていこう。

ぬ)

こうした改札機や券売機関連のトラブルは、本誌の視点が殊更に意地悪だったわけではなく、「朝日」「文春」などの週刊誌も同様に皮肉な描写で混乱ぶりを伝えている。

また、本誌は採算面への疑問を呈し、「五輪のためなら何でもあり」の方針を改めて批判した。

（市当局のソロバンでは、一日二十万三千人の乗客があるとし、南北線の初年度収入見込額が二十四億円。ところがすでに準備期に生じた赤字が十四億円もある。しかも、二月現在、一日の乗客数は十八万から十九万を前後している（市交通局調べ）。このペースでいくと、黒字になるのは十八年後の昭和六十四年。この年度でもタタ七千三百万円の黒字）この状態で本当に札幌に「地下鉄」が必要だったのだろうか。オリンピックのためという「隠れミノ」がやはりしなかつたのか）



続きは『月刊クオリティ』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)